

平成27年度

学校評価 No.2

・学年部(Ⅰ) P1 ~ P3

・校務分掌(Ⅱ) P4 ~ P12

・教科(Ⅲ) P13 ~ P21

秋田県立雄物川高等学校

評価領域	I ① 1年部
------	---------

重点目標	高校生として自分の行動に責任を持ち、規律ある生活習慣と豊かな心を持つ生徒の育成に努める。
------	--

現 状	素直で積極的に行動する生徒が多い一方、対人関係に不安を抱える生徒、家庭環境が複雑な生徒も見られる。基礎学力に差がある。
-----	---

具体的な目標	①正しい判断力と正義感をもって自ら進んで行動する姿勢を持たせる。 ②向上心をもって目標・課題を設定し、積極的に学習に取り組む姿勢を向上させる。 ③他人を思いやる心と協力する姿勢を向上させる。
--------	---

目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・気になる行動はその場で注意し、改善させるとともに職員間で情報を共有し、共通理解を図る。 ・業務の分担を図り、協力体制を確立する。 ・良い点、頑張った点などを評価し、自信を持たせる。 ・様々な機会に面談を実施する。 ・パスカルタイムやLHRを活用し、自己理解、他者理解の機会を設ける。
------------	--

具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・自学ノート、週末課題、課題テスト等を活用し、家庭学習の定着を図った。 ・朝学習、放課後学習会、土曜学習会、長期休業中補習を計画的に実施した。 ・学年通信で学校の様子だけでなく、生徒の活躍も具体的に掲載した。 ・担任や学年主任による生徒面談を実施し、生徒理解に努めた。 ・学年部会だけでなく、日頃から生徒に関する情報交換を行った。 ・パスカルタイムでクラスの枠を超えて活動する時間を設けた。
------------	--

達成状況	学年部会中心に連携を密にし、生徒に応じて迅速に対応することができた。生徒は非常に素直で、与えられたことには真面目に取り組むが、自分から進んで勉強する姿勢、自分から行動する姿勢の確立には時間を要する。
------	---

自己評価	<table border="1"> <tr> <td>(評価) B</td> <td>(概観) 自己理解はパスカルタイム等で身につけてきているが、他の生徒への思いやりのある言動、温かく見つめる姿勢について今後も指導をしていかなければならない。</td> </tr> </table>	(評価) B	(概観) 自己理解はパスカルタイム等で身につけてきているが、他の生徒への思いやりのある言動、温かく見つめる姿勢について今後も指導をしていかなければならない。
(評価) B	(概観) 自己理解はパスカルタイム等で身につけてきているが、他の生徒への思いやりのある言動、温かく見つめる姿勢について今後も指導をしていかなければならない。		

評価基準 A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	<table border="1"> <tr> <td>(評価) A</td> <td>(意見) 卒業生から「学校が楽しい」という声を多く聞くが、それは先生方が丁寧に指導してくださっている証拠である。パスカルタイムを充実させ、引き続き、生徒の自主性を育てるご指導をお願いしたい。</td> </tr> </table>	(評価) A	(意見) 卒業生から「学校が楽しい」という声を多く聞くが、それは先生方が丁寧に指導してくださっている証拠である。パスカルタイムを充実させ、引き続き、生徒の自主性を育てるご指導をお願いしたい。
(評価) A	(意見) 卒業生から「学校が楽しい」という声を多く聞くが、それは先生方が丁寧に指導してくださっている証拠である。パスカルタイムを充実させ、引き続き、生徒の自主性を育てるご指導をお願いしたい。		

上記に基づいた改善策	ささいなことでも生徒の成長に気づき、ほめて指導することで、自信を喚起させていきたい。学級や学年での活動の中で生徒の活動を増やし、自主性を伸ばしていきたい。人間関係の構築についても、具体的に教えていきたいと思っている。
------------	--

評価領域	I② 2年部
------	--------

重点目標	高校生としての自覚を持ち、責任ある行動をすることができる生徒、進路実現を見据えた学力向上をめざし、主体的継続的に学習や課外活動に取り組む生徒の育成。	
現 状	素直で積極的に行動する生徒が多いが、基本的な生活習慣が確立していない生徒もみられる。自らすすんで学習に向かう生徒とその姿勢がみられない生徒の差が大きい。	
具体的な目標	①正しい判断力をもって積極的に正しい行動をする姿勢を身につけさせる。 ②目標や課題を見つけ、自主的・積極的に学習に取り組む姿勢を持たせる。 ③学校生活を通して、集団生活のマナーや他人と協力する姿勢をさらに向上させる。 ④進路目標を具体化させ、実現に向かう準備をさせる。	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・気になる行動はその場で注意し改善させるとともに、職員が情報を共有し共通理解を図る。 ・きちんとした態度で朝学習や授業に参加させ、さらに家庭学習を充実させて、学力を向上させる。(朝自習での小テストの実施、自学ノートの活用など) ・部活動の顧問と連絡を密にして、連携して指導する。 ・進路の情報を提示し、いろいろな場面で面接の機会を設ける。 	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学年職員や部活動顧問とも共通理解を図り、連携した指導を継続している。 ・朝学テスト、自学ノート、考査前指導、土曜学習、長期休業中の補習などを実施した。 ・授業に臨む態度、挨拶などを自発的に向上できるように指導した。 ・進路情報を伝え、面接や指導を実施した。 	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学習や生活態度など向上していると思われるが、自発的に行うところまでは至らない。 ・進路に関する意識は徐々にではあるが出てきている。しかし、学力向上に難航している状況のため進路目標を具体化させる事ができずにいる生徒がいる。 	
自己評価	(評価) B	(根拠) 昨年度よりは落ち着いた生活態度が見られるようになった。しかし、いろいろな場面で自発的に物事に取り組み、向上しようという気持ちを感じられない生徒がいるため。
評価基準	A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) 中間の難しい学年ではあるが、基本的な生活習慣の確立が今後の課題である。今まで培ってきたものをどう改善していくか、PTA活動も通じて具体的な対策を考えていくことが大事である。
上記に基づいた改善策	保護者とも情報を共有し、協力しあって生徒の進路目標を達成させたい。生徒には進路を強く意識した指導を継続していきたい。	

評価領域	I③ 3年部
------	--------

重点目標	最高学年としての自覚と責任を持ち、進路実現に向けて努力する生徒の育成。	
現 状	進路に対する意識が高まってきているが、取り組みに甘さがある。また行動面において消極的で、指示待ちの傾向がある。	
具体的な目標	①進路実現に向け継続的・計画的な学習を通して学力を伸ばさせる。 ②社会の一員として通用する基本的な生活習慣を定着させ、規範意識を向上させる。 ③学校行事や部活動を通して、自主性、自律心、明るく素直な心、他人を思いやる心をもたせる。	
目標達成のための方策	①授業への取り組みの改善、家庭学習の充実、朝学習、補習等により学力の向上を図る。 ②模試等を効果的に活用し、全国レベルでの学力を意識させる。 ③整容、言葉遣い、挨拶、整理整頓、時間厳守等の生活指導を日常生活の中で行う。 ④日々の清掃活動、委員会活動、係活動を積極的に行えるよう啓蒙する。	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・自学ノート、朝学習、週末課題、長期休業中の補習、放課後補習などを通して基礎力を身につけさせた。 ・学年部職員が共通認識をもって整容検査で服装、頭髪等の指導を実施し、普段から整容に気を配るよう声かけをした。 ・進学模試、就職模試、看護模試、公務員模試を実施した。 	
達成状況	3年生になり進路意識が高まるとともに補習や課題学習に積極的に取り組むようになった。学校行事では積極的に自分たちの意見を出し合い、懸命に取り組み、学校全体を牽引した。	
自己評価	(評価) A	(根拠) 最上級生として進路活動・学校行事等に一人ひとりが努力した。
評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) 一人ひとりの進路に応じ、様々な工夫をして丁寧に指導をしていただき、結果を出している。
上記に基づいた改善策	社会の変化や家族のあり方の変化により、生徒の価値観に多様性が生じている。その点への対応が後手にならないよう、アンテナを高くして、生徒と対峙していきたい。	

重点目標	保護者や地域、外郭団体とのつながりを積極的に展開し、学校の活性化に貢献する。特に、P T Aに関しては、より一層の連携を図る。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域の方々に学校を見ていただく機会を大事にしている。 ・県南地区P T A交流大会の事務局となり、P T Aとの連携を手厚く進めていく必要がある。 ・ここ数年の保護者や地域、学校評議員による学校評価のシステムは、うまく機能していると思われる。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「登校時一声運動」（「朝のつどい」）について外部の方の参加者を、延べ人数100人程度をめざし、本校への理解を促す。 ・県南地区P T A交流大会の成功を目指し、結果的に外部から評価してもらえる学校づくりに貢献する。 ・保護者や地域へのアンケートを実施し、全職員で学校のあり方を模索していく役割をこなす。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・「登校時一声運動」（「朝のつどい」）について、P T A総会や学年P T A、学年部報、あるいは部活動の親の会を通すなどして、保護者への参加の呼びかけを協力してもらう。 ・県南地区P T A交流大会の事務局校として、P T Aが中心となって企画運営の協議をしていく手助けをする。 ・保護者や地域へのアンケートの集計結果を、職場内できちんと検討する環境を整える。 	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「登校時一声運動」（「朝のつどい」）について、P T A総会や学年P T A、学年部報等で、参加の呼びかけを協力してもらった。 ・「登校時一声運動」に多くの職員の協力を得られた。 ・県南地区P T A交流大会に向けて、計画的に実行委員会を開き企画運営の協議を進めていく手助けをした。 ・保護者や地域へのアンケートの集計結果を職場内できちんと検討し合い、次年度に生かす取り組みをした。 	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時一声運動における外部からの参加者は延べ人数で89人（昨年比+32）だった。 ・登校時一声運動に数多くの職員の協力が得られるとともに、生徒指導上の連携等に大いに役立てられた。 ・県南地区P T A交流大会は、本校P T A実行委員が中心となって企画運営に取り組むサポートができ、会自体も成功したと思う。 ・保護者や地域へのアンケートについては、計画通りスムーズにこなし、P D C Aに生かした。 	
自己評価	(評価) B	(根拠) 登校時一声運動の参加者数が持ち直し気味で、良かった。部活動における親の会等に、粘り強く協力を求めるなどしたい。県南地区P T A交流大会においては、多くの本校P T A役員から協力を得られ、達成感を共有できたことが良かった。アンケート集計は、次年度に生かされているし学校力のバロメーターとして機能している。
評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) 雄物川高校の良さを周知させる種々の取り組みを講じてくれている。社会に出てからも基本となる礼儀やあいさつについて、P T Aも関わりながら指導をしていくことが大切である。
上記に基づいた改善策	学校理解を促す意味で、特にP T Aの方々に対し、一声運動やつどいに参加してもらう手立てを充実させたい。	

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校・地域との連携を深めるとともに、学校の活性化を図る。 ・生徒の学力向上を目指し、授業や教育課程の充実・工夫を図る。 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の入学者選抜では、前期・一般共に定員を確保することが出来たが、少子化が更に進む今後を考えると安閑とはしてはられない現状である。 ・高校入試の結果からも基礎学力の不足は明らかである。多様な進路希望を実現するための、学力向上につながる授業力の向上が求められている。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中高連絡協議会や体験入学、高校説明会等を通し、本校を中学生にアピールし入学定員を確保する。 ・学力向上を目標とした授業改善に取り組み、生徒が意欲的に取り組み、思考する授業を実現し学力を向上させる。 	
目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> ① 中高連絡協議会の内容や開催時期等、各中学校と連携し、より多くの参加者を募る。 ② 体験入学や高校説明会の内容の充実を図る。また学校案内をより魅力的なものにする。 ③ 研修部と協力し、中高大の異校種間の連携を強化する。 	
具体的な取り組み状況	<ol style="list-style-type: none"> ①③ 第2回中高連絡協議会は、研修部と連携しての中高大授業研修会を実施したが、中学校の参加者が述べ12名（前年比+5）、研究授業には7名（前年比+5）と昨年よりも多くの参加者があり有意義な会となった。 ② 体験入学参加者は述べ100名と昨年を若干下回ったが、部活動の見学・参加希望者が全体の73%と昨年の55%を大幅に上回った。高校説明会は教務単独では7中学校、年末は全職員で手分けして7中学校で実施した。 	
達成状況	それぞれ工夫を加えながら取り組んでおり、目標達成が見込まれる。	
自己評価	(評価) B	(根拠) 中高連絡協議会では昨年の上回る参加者を確保でき、参加者の感想も良好であった。近隣の中学生が減少しているなか、体験入学の参加者もほぼ目標人数を確保していると思う。授業改善に関しては、中学校等の授業の様子を更に参考とする手立てを考える必要がある。
<p>評価基準</p> <p>A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない</p> <p>C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>		
学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) 中高連絡協議会や中高大連携の授業研修会、体験入学など、計画的に実施することができている。引き続き、関係機関とのつながりを持ちながら様々な効果的な取り組みをしてもらいたい。
上記に基づいた改善策	校内各分掌、校外関係機関との連携を強化し、生徒募集・授業改善についての取り組みを更に充実した内容に発展させる。	

評価領域	Ⅱ③ 生徒指導
------	---------

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員の共通理解の下に、正しい生活習慣を身につけた、心豊かな人間を育成する。 ・生徒の生活全般にわたる状況理解に努め、高校生活に適應できるよう支援する。
------	--

現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・心身に問題を抱えた生徒が多数いる。病的、障害等の生徒については多少、周囲への影響がある。 ・家庭環境に問題を抱えた生徒が多く、基本的な生活習慣に課題のある生徒がいる。また、それに伴う問題行動が心配される生徒がいる。
-----	---

具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・整容指導、校門指導、つどいを中心とした遅刻指導や挨拶指導などを通し、また家庭や地域とさらに連携を深め、生活の乱れや問題行動による処分者を出さない。
--------	--

目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・担任、副担任が常に教室に出向き、生徒とのコミュニケーションを図り、また定期的に面接を行う。 ・校門指導やつどいなどを通して、常に多くの職員が日常的に生徒との対話に努める。 ・生活に関するアンケートの年2回実施。問題には素早く対応する。
------------	--

具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活に関する内容やいじめのアンケート実施（年2回） ・整容指導 ・校門指導 ・遅刻指導 ・挨拶指導 ・外部講師を招いての交通安全講話の実施
------------	--

達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生活アンケートや校門指導、普段のコミュニケーションで生徒の現状を把握し、HR・学年・全体で問題が起こらない事前指導が徹底できた。停学等の特別指導はなかった。
------	---

自己評価	<table border="1"> <tr> <td>(評価) A</td> <td>(根拠) 重大事態には至らないが、いじめにつながる些細な事案も少なくない。いじめは許さないという指導を全体でおこなっているが、教師側のみの指導ではなく、生徒主体のいじめ撲滅を進めていきたいと考えている。生徒指導が進路指導や部活動そして学校のカラーに大きく関わっていることも合わせて確認した上で、全職員の協力を得ながら、頑張っていきたい。</td> </tr> </table>	(評価) A	(根拠) 重大事態には至らないが、いじめにつながる些細な事案も少なくない。いじめは許さないという指導を全体でおこなっているが、教師側のみの指導ではなく、生徒主体のいじめ撲滅を進めていきたいと考えている。生徒指導が進路指導や部活動そして学校のカラーに大きく関わっていることも合わせて確認した上で、全職員の協力を得ながら、頑張っていきたい。
(評価) A	(根拠) 重大事態には至らないが、いじめにつながる些細な事案も少なくない。いじめは許さないという指導を全体でおこなっているが、教師側のみの指導ではなく、生徒主体のいじめ撲滅を進めていきたいと考えている。生徒指導が進路指導や部活動そして学校のカラーに大きく関わっていることも合わせて確認した上で、全職員の協力を得ながら、頑張っていきたい。		

評価基準 A:具体的な活動がなされ目標を達成できた B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	<table border="1"> <tr> <td>(評価) A</td> <td>(意見) 大きな事故が起こらなかったというのは非常に良い状態である。生徒がいじめ等を許してはいけないと実感できるような、生徒の心に響くような指導を引き続きお願いしたい。</td> </tr> </table>	(評価) A	(意見) 大きな事故が起こらなかったというのは非常に良い状態である。生徒がいじめ等を許してはいけないと実感できるような、生徒の心に響くような指導を引き続きお願いしたい。
(評価) A	(意見) 大きな事故が起こらなかったというのは非常に良い状態である。生徒がいじめ等を許してはいけないと実感できるような、生徒の心に響くような指導を引き続きお願いしたい。		

上記に基づいた改善策	<p>今までやってきた取組の質が落ちないように、むしろ質を上げる努力をしていきたい。いじめに関してはパスカルとの連携も考える。</p>
------------	---

重点目標	<p>高校生活への適応と、社会で有用な人材となるための自己意識の形成を図り、組織的な体制のもと、早期における自己の希望進路の決定と実現を目指す。</p>	
現 状	<p>本校生徒は一部に精神的・情緒的発達面で配慮が必要な者や、経済的、教育的に厳しい家庭環境下にある者もいるが、素直に自分や他者を見つめ理解し、自己実現に対して真摯に向かう状況にある。</p>	
具体的な目標	<p>P T：パスカルⅡを効果的に活動できるように、情報の共有をはかりながら実践し、内容を検討する。 進学：生徒の希望と目標達成に必要な学力が身に付くよう学年、教科と連携を図りながら生徒の目標達成に近づけるよう努める。 就職：1・2年次から自己の将来について考えさせ職業について深く考えさせる。3年生の希望進路実現に向けて面接練習等で支援する。</p>	
目標達成のための方策	<p>P T：パスカルタイム委員会を効果的に活用し、各学年、生徒指導、保健、特別活動部と連携して系統的なプログラムを作成及び実践し、パスカルⅡの内容を精査する。 進学：模試や補習の効果的な活用を検討し、オープンキャンパス、進路ガイダンス、勉強合宿、講演会など計画的に行い、生徒に必要な情報を提供する。 就職：ガイダンスやインターンシップ等を活用し、勤労観・職業観を養う研修や体験を進める。職員が県内外企業を訪問し求人動向や傾向について適切な情報を提供する。</p>	
具体的な取り組み状況	<p>P T：パスカルタイムの内容を精査し、エクササイズや講演会を各分掌と協力し実施した。 進学：教科と連携を図りながら計画していた事業は予定通り実施できた。 就職：自己の将来について考えさせ職業について深く考えるよう、ガイダンスやインターンシップ等を実施した。</p>	
達成状況	<p>パスカルタイムでは、将来の自己のあり方を理解させ、他者理解やライフスキルの観点からも考えさせることが出来た。進学では、補習授業の充実もあり20名以上の四年制大学進学を果たした。また進路ガイダンスを実施することで、早期から進路への意識を持たせ、勤労観・職業観を養う機会となった。</p>	
自己評価	(評価) A	(根拠) 多くの事業が計画的に実施され、キャリア教育の充実に努めることが出来た。
評価基準	<p>A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>	
学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) パスカルタイムでの様々な取り組みは、社会に出てから必要な力を育てており、大変評価できる。これからも継続して、全校で取り組んでほしい。
上記に基づいた改善策	<p>生徒の進路決定はもちろんであるが、生徒が卒業後の生活設計を明確にかつ具体的にすることでキャリア教育の充実に努めていきたい。</p>	

重点目標	「豊かな心」「自主性」の育成と地域連携を目指す。	
現 状	各部とも熱心に活動しており生徒の成長が見られる。中学校との合同練習も増えてきている。生徒会活動では、生徒主導の行事運営が十分定着してきた。ボランティアを通して、地域との繋がりを築いてきている。	
具体的な目標	生徒会：行事の計画・実施にあたって生徒の自主性を生かす指導に努める。 部活動：技術のみの体得ではなく、心を育てる指導に努める。	
目標達成のための方策	生徒会は計画段階から執行部と話し合い、アイデアを活かす。さらには学校行事をホームページ等で紹介・報告し、生徒の活動内容を外部に発信する。 部活動においては、結果だけを求めるのではなく、結果までの過程の中で、集団行動の在り方や素直な心を育てる指導に努める。	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・朝のつどいや壮行会では生徒が司会進行をおこない、校歌指導においても生徒が全て行った。 ・図書視聴覚教育情報部と連携し、部活動の結果やその他ボランティアといった活動をホームページに掲載した。 ・部活動を通して、地域連携や中学校との連携に積極的に取り組んだ。 	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の指導を通して、挨拶や校内清掃をすすんでしようとする姿が多く見られた。 ・昨年より中学生と合同練習する部活動が増え、中学校との繋がりをより深くさせている。 ・部活動の活躍だけでなく、全県簿記大会での六連覇、中高生未来会議の最優秀賞など、様々な活動が大きく評価された。 	
自己評価	(評価) A	(根拠) つどいをはじめ多くの行事、部活動を通し、生徒が様々な立場に立って物事を捉え、自主性や主体性を育てている。その成果や内容を、教育情報部と連携し外部に発信できるようになった。地域・小中学校との連携は高まりつつあるが、PTA(保護者)をより多く学校に呼び寄せるといったことに関しては、課題がまだある。
<p>評価基準</p> <p>A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>		
学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) 心の豊かさというものは、全ての事柄につながることである。積極的なあいさつや物事に取り組む自主性というものを今後も良い方向に伸ばしてほしい。
上記に基づいた改善策	これまでと同様に、総務・教育情報部と連携して、地域・保護者に雄物川高校の活動を発信していく。また、種々の活動の質を高めるための工夫を生徒と共に考えていく。	

重点目標	心身の健康の保持増進と校内外の環境衛生の維持向上を目指す。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食抜きや夜更かしなど基本的な生活習慣が身につけていない生徒がいる。自己管理ができずに体調不良を訴える生徒もいる。 ・自己肯定感が低くコミュニケーション不足から、望ましい友人関係を築けず悩んでいる生徒がいる。 ・ゴミの分別ができていない箇所がある。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・講話や保健指導を通して、自らの健康に関心を持たせ、健康づくりを意識させる。基本的な生活習慣の大切さに気づかせる。 ・適切なコミュニケーション能力を身につけさせる。 ・自ら学習環境を整える意識を高める。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・パスカルタイムの時間を有効に活用し、スキルアップを図る。 ・ライフスキルの講話では、保健委員が準備・進行・最後の感想発表まで主導できるようにさせる。 ・悩みを抱える生徒に対しては、学年部と連携のうえ家庭と連絡を密にし、スクールカウンセラーと協力して取り組む。 ・保健委員会を活性化する。(環境美化活動、ゴミの分別の徹底) ・月曜日を「水拭きの日」として、廊下、階段、教室のぞうきんがけを呼びかける。 	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・パスカルタイム ライフスキルの講話では、保健委員が講師案内、進行、感想発表まで分担して実施した。 ・友人関係に悩みを持つ生徒には担任・学年部の先生方だけでなく早めにカウンセリングを受けさせて心の安定と解決のための支援を継続中である。 ・毎週月曜日に保健委員は美化活動をおこなった。(校内、校外) 	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・パスカルタイムの感想からは意識の向上が見られるが、実際の生活に生かしきれていない点もある。たとえば、コミュニケーションスキルを理解しても友人関係の改善に生かせる生徒が少ないようだ。 ・保健委員の活動日を決めることで環境美化に感心を持つ委員が出てきたが、参加に消極的な生徒もいた。 ・水拭きの呼びかけはあまりできなかったが、毎週実施するクラスが多く、教室環境の整備はおおむね良かった。 	
自己評価	(評価) B	(根拠) 予防教育としての保健講話は実施できたが、基本的な生活習慣、コミュニケーション能力を身につけることはなかなか徹底できなかった。
<p>評価基準 A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされおらず、目標も達成できていない</p>		
学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) 生徒が主体的に行動し、学校内外の環境の整備に努めていた。パスカルタイムと連携して、ライフスキル向上のための効果的な指導がされている。継続をお願いする。
上記に基づいた改善策	校内外の環境美化への取り組みを今後も継続する。健康づくり、生活習慣の定着を目指し、ライフスキル講話の内容をさらに充実させる。	

重点目標	図書館利用の推進と教育情報機器の活用システムの確立を図る。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館を利用する生徒や読書を習慣としている生徒が少ない。 ・教やスキルの面から、教育情報機器を効果的に利用できる状況とは言えない。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・NIE委員会と協力し、新聞の利用により進路活動と読書活動を結びつけ、読書活動の活性化を図る。 ・教育活動全体で効果的に活用できるよう、教育情報機器の整備を図る。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会を活性化し、生徒の視点での購入図書選定を行う。 ・授業やLHR、朝学習における読書の時間を計画する。 ・新聞や図書のコーナーを見直し、さらに生徒が新聞や本を読みやすい環境を作る。 ・パソコンやプロジェクター、電子黒板などの教育情報機器の整備を行い、誰でも使いやすく効果的に利用できる環境を整える。 	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会が意欲的に活動できるよう、生徒主体の活動になるよう工夫した。 ・各学年の協力により、授業やLHR、朝学習読書の時間を計画できた。 ・図書のコーナーの図書の配置を生徒に担当させるなど、生徒目線のコーナー作りに取り組んだ。 ・教育情報機器の棚を整理し、使いやすいように工夫した。三学期に理科講義室のパソコンやプロジェクターを整備する予定である。 	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会が意欲的に活動してくれ、図書館内も活気があった。図書選定は三学期に行う予定である。 ・各学年の協力により、読書の時間を増やすことができた。 ・図書のコーナーの図書を借りる生徒も増えた。また、NIE委員会の協力により、3年生が新聞に興味をもってくれるようになった。1・2年生にはコーナーが周知されていないので、改善が必要である。 ・教育情報機器を少しずつ整理しているが、理科講義室などさらに使いやすい状況にしたい。 	
自己評価	(評価) B	(根拠) 図書委員は意欲的に活動してくれたが、全校生徒の読書率は依然として低い。これからも地道な活動が求められる。また、教育情報機器については現在ある機器を使いやすくすることができた。新しい機器を増やせるよう、事務と相談していきたい。
評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) 読書は、自己の感性を養う有効な手段である。情報過多の現代において、読書の意義や楽しみをどのように生徒に伝えるかが課題である。
上記に基づいた改善策	今後は今年度以上に学年や教科と連携し、授業で図書館を利用したり読書の時間を設けたりして読書へのきっかけ作りを行いたい。教育情報機器の整備については、これからもこまめな改善を図り、使いやすい環境を整えていく。	

重点目標	授業の改善へとつながる研修等を実施し、教員全体の資質の向上を図る。	
現 状	授業改善については年に2度の授業参観を実施し、学年部や教科を中心とした研修会を全職員で実施している。また教職員全体の研修会では、特別支援教育や危機管理等についての理解を深めている。	
具体的な目標	より充実した授業研修会や職員研修を企画する。	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校や大学と連携しての授業研修会 ・ 予備校研修会等参加による授業のスキルアップ ・ (今後の進路指導のための管外先進校視察) ・ 全教職員対象の研修会の実施 (生徒指導や特別支援関係の研修) 	
具体的な取り組み状況	中高大連携授業研修会を実施し、多くの中学校の先生に参加して頂いた。(去年は1教科の研究授業だったが今年は3教科で実施) 予備校研修会は、教科だけでなく小論指導にも参加できた。3年ぶりの特別支援関係の研修会で専門の先生の講話を聞く機会を設定できた。また、3教科で市内の中学校に授業参観に行った。(予定も含めて)	
達成状況	有意義な研修を実施できたので、今後に活かしていきたい。	
自己評価	(評価) B	(根拠) 複数の教科で研究授業を実施でき、また多様な生徒について考える契機を提供できたので。
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) 中高連携協議会や授業研修会は大変有意義な時間となっている。中高がお互いに連携を深め、協議会等の機会だけでなく、普段からも交流をしていって欲しい。
上記に基づいた改善策	今年度は3名が中学校の授業を見に行ったので、来年度も継続して、中高連携を深めていきたい。	

重点目標	学校教育目標の達成に向け、教育活動を主体的・積極的に支援する。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 築31年の校舎のため、修繕等を要する箇所が多数存在するが、対応できていない。 ・ 来校者等への対応は、概ね丁寧適切に対応できていると思われるので、今後もこの状態を維持する。 ・ 保護者に対し就学支援金等の制度内容が十分に周知されていない。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設・備品等の修繕等について、修繕方法を的確に判断し早期に対処する。 ・ 窓口や電話では、引き続き親切・丁寧な対応を維持する。 ・ 就学支援金制度等については、きめ細かな説明を行うことにより、制度内容を十分理解していただき申請もれを0件にする。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 修繕については、学校で対応できる修繕か、業者依頼する修繕かを的確に判断し、緊急度を考慮し優先順位により順次対応する。 ・ 丁寧適切な対応を維持するため、互いに助言し合える環境をつくる。 ・ 就学支援金制度等については、丁寧な説明ができるよう事務職員のスキルアップを図る。 	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 修繕については、新たな案件が生じた場合は緊急度や優先順位を協議し対応した。 ・ 就学支援金等については、担当外の職員についても説明ができるよう制度内容の共有を図った。 	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急度の高かった渡り廊下外壁など、早期に予算要求や業者依頼を行い、生徒の安全確保に努めたが、対応できていない他の修繕箇所が残っている。 ・ 来校者等への対応については、丁寧・親切な対応ができた。 ・ 申請がなかった世帯に電話などで説明を行い、該当するすべての世帯から申請していただいた。 	
自己評価	(評価) B	(根拠) 修繕については、概ね予定どおりの進捗であったが、予算の関係で年度末に修繕時期を移行した案件もあった。今後も修繕箇所増が見込まれるが、引き続き光熱水費・消耗品等の節減により予算確保するため、協力を求めていく必要がある。就学支援金等については、引き続き制度の丁寧な説明とスムーズな事務処理を行っていきたい。
評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) 校舎の維持管理はよく努力をしてくれている。窓口や電話対応も適切である。通常の業務に加え、同窓会・教育振興会・募金委員会等々の業務が集中し多忙に見える。
上記に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他の分掌とも連携し、事務分掌の見直しと平準化を図る。 ・ それぞれの分掌を補完できるよう主担当・副担当制にする。 	

重点目標	基礎的学力の向上と進路希望に応じた表現力への発展を図る。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・国語に対する関心は低くないが、指示を聞きとる力や文章を読み取る力に劣る生徒、自分の考えを言葉にして論理的に表現することが苦手な生徒が多い。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙力、思考力、表現力を向上させる。 ・就職試験・入試に対応できる表現力と応用力を身につけさせる。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年で語彙のテキストを利用し、計画的・継続的に学習させる。 ・授業における言語活動を重視し、効果的な活動になるよう工夫する。 ・授業での発表の仕方のルール作りを行い、他教科の授業でも活用できるようにさせる。 	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年で語彙のテキストを利用し、計画的・継続的に学習させた。 ・さまざまな授業形態を取り入れ、言語活動を重視した授業を実施した。また、効果的な言語活動を学ぶため、校内外の研修に参加した。 ・授業での発表の仕方のルール作りを行い、丁寧に指導した。 	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストにより漢字の読み書きなどの語彙力が少しずつ身につけてきている。2月の漢字検定の全員受検を動機付けとして、語彙力の向上を図りたい。 ・言語活動を重視し、多くの授業形態により、効果的な活動を行うことができた。今後も研修に積極的に参加し、新しい授業形態を学ぶ必要がある。 ・授業での発表の仕方のルールはある程度徹底できたので、今後は語彙力や表現力を伸ばす必要がある。 	
自己評価	(評価) B	(根拠) 3年生ではある程度目標が達成できているが、1・2年生についてはまだ達成できていない。今後も継続して語彙力・思考力・表現力を高める授業を研修し、行う必要がある。
評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
校長の評価・意見	語彙力を高めるには、不断の継続的指導が重要であり、日々よく努力し指導している。授業中のルールを決めたり、授業形態を工夫したり、規律よく言語活動の充実を目指し、表現力や思考力を高めようとする取組がなされている。継続した指導を期待している。	
上記に基づいた改善策	今後も小テストや言語活動を重視し、多様な進路に対応した学力の向上を図りたい。そのためにも今後も研修に積極的に参加し、科内で情報を共有し、学び合いたい。	

重点目標	授業をとおり、思考力や判断力、表現力を身につけさせる。	
現 状	興味や関心を持ち授業に臨む生徒がいる一方で、基礎・基本となる学力が不足している生徒が多い。社会的思考力や表現力が身につけていない。	
具体的な目標	①基礎・基本となる知識を定着させる。 ②多角的なものの見方や考え方、表現力を身につけさせる。 ③生徒が身近に感じ主体的、積極的に関わることができる教材を考える。	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元ごとの小テストやまとめの時間を設定する。 ・ 週末課題などで、学習に向かう姿勢をつくらせる。 ・ 授業における言語活動を活発にするための発問を工夫する。 ・ DVD、新聞などを用いて、社会的事象に興味を持たせ考えさせる。 	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小テストや課題（新聞記事集めや都道府県テスト、長期休業中を含め）を実施し、そのあとの個別学習を指導、また授業の中で発表を行わせた。 ・ DVD（映像）を使用し、地理や歴史の事象に興味関心を持たせた。 ・ 史料や地図など視聴覚教材を用いて、思考力や表現力の育成を行った。 	
達成状況	興味関心を高めさせ、学習に向かう姿勢はよくなっている。繰り返し指導したことで、基礎学力はある程度は定着がみられる。	
自己評価	(評価) B	(根拠) 基礎学力の不足が補いきれず、思考力や判断力など目標の達成に至らなかった。
評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
校長の評価・意見	興味・関心を高めるための話材を広く求め、丁寧な授業を心掛けており、生徒の学習姿勢の向上にも結びついている。また、基本事項の理解のために小テスト等を繰り返しよく指導されている。今後は教科「公民」において、主権者教育の実践・充実が重要になってくる。	
上記に基づいた改善策	生徒が積極的に関わることが出来る教材をさらに精選し、社会的な思考力や判断力、表現力などまで高められる方策を検討していく。	

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・数学における基本的事項の定着を図ると共に、数学に対する興味・関心をもたせることによって、自ら解決する姿勢を高める。 	
現 状	<p>数学に対する苦手意識を持っている生徒が非常に多く、加減乗除の基礎的な計算も確実にできない生徒がいる。真面目な授業態度で成績上位の生徒でも、自主的に課題を求め向上しようとする生徒は少ない。</p>	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人を励ましなが、基礎基本を大切に指導をする。 ・授業改善に努め、説明だけの一方的な授業をしない。 ・幅広い層の生徒に対して、全体指導ではまかなえない部分は、個別指導を徹底する。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の理解度をきちんと把握するため、机間指導をしっかり行う。 ・小テストや提出課題による指導等をこまめに行い、定期考査前には問題演習の時間を十分に設け、学習事項の習熟を図る。 ・上位層にはレベルの高い内容の課題を適宜与える。 ・下位層には個別補習や土曜学習会等を実施し、対応する。 	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の理解度をきちんと把握するため、机間指導をしっかり行う。 ・小テストや提出課題による指導等をこまめに行い、定期考査前には問題演習の時間を十分に設け、学習事項の習熟を図る。 ・上位層にはレベルの高い内容の課題を適宜与える。 ・下位層には個別補習や土曜学習会等を実施し、対応する。 	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・相互授業研修や中高大連携授業研修において、板書の仕方、発問・指示の仕方等について全員が授業力向上を目指した。 ・全てのクラスにおいて週末課題等を課し、基礎学力の定着と伸長を目指した。提出率も良好である。 ・土曜補習、定期考査前補習等でA B組では主として下位層に対して対応し、欠点者数も少なくなった。C組では勉強合宿や土曜補習、長期休業中の補習や放課後補習等を通して学力向上を目指した。 	
自己評価	(評価) A	(根拠) 数学に対する苦手意識が強い生徒が多い中で、上位者から下位者までそれぞれ対応できたと思われる。
評価基準	<p>A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>	
校長の評価・意見	<p>学力差が大きく一斉指導の難しさがあるが、ねらいを焦点化し、分かる授業の実践に取り組んでいる。全ての生徒に社会で困らない計算力、数学的な考え方を身に付けさせたい。課題等のチェックを次の指導に生かし、興味・関心を高め、家庭学習の習慣化を図りたい。</p>	
上記に基づいた改善策	<p>社会で困らない計算力の鍛錬、物事を数学的に考える態度の養成を数学科全員で取り組むことによって、数学に対する興味・関心を高め、発展的な活動につながるようにする。</p>	

重点目標	創意工夫をこらし生徒の学習意欲を高め、基礎学力を定着させる。	
現 状	科学的な現象に対して興味関心は高く、実験実習等には積極的に取り組むことができる。基礎学力にばらつきがあり、基本的な計算でつまずいてしまう生徒も多い。特進コースでは理系の国公立大学への進学を希望して理科を重点的に学びたい生徒もおり、個別対応が必要である。	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習事項の理解と、基礎基本の定着を図る。 ・身近な現象を科学的に分析する習慣を身につけ、思考力の養成を目指す。 ・進路希望達成に向けて自主的に学習する習慣を身につけさせる。 ・新教育課程の科目の教材研究と受験対応の工夫。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめプリントを活用し、基礎基本を確認させる。 ・到達目標を提示し、小テスト等で確認し、生徒同士でつまずきの原因などを学び合う時間を設ける。 ・学習意欲向上のため、実験・観察を多く実施し、DVD教材の活用も工夫する。 	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な計算やグラフの読み方を重点的に演習 ・身近な題材を活用した実験の実施、DVD教材の活用 ・まとめプリントの活用 ・小テストを実施し、合格点に達するまで繰り返し実施 ・小グループによる実験、まとめ、発表 ・進学希望者の放課後補習 	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・実験やDVD教材の活用により、興味関心は高まっている。 ・小テストの実施、演習の繰り返しで家庭における学習時間が増えた。 ・消極的な生徒もグループ学習により、自分の意見をグループ内で発信することができ、授業への集中力が高まった。 	
自己評価	(評価) B	(根拠) 教材の工夫により、興味・関心を高めることができている。比や指数の計算、グラフの読み取りなど数的処理が必要な内容を苦手としている生徒への指導は継続していきたい。
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
校長の評価・意見	教材の精選や実験内容の工夫により、生徒の興味・関心を高め、生徒の主体的で活発な活動もみられる。小テストも有効に活用している。課題とされる数的処理力の向上に継続して取り組んでほしい。	
上記に基づいた改善策	授業時に「わかった」感を定着させ、家庭学習で理解を深めることができるように授業研究を更に進め、工夫していきたい。	

重点目標	基礎体力の向上を図り、さらに学習意欲を高める指導の工夫をする。	
現 状	男女とも共通して運動の得意な生徒と苦手な生徒の二極化がはっきりしている。特に、女子の中で苦手意識の強い生徒が活動できずに消極的になってしまう傾向が強い。	
具体的な目標	・運動することの楽しさを感じさせながら、基礎体力の向上を図る。	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・各運動種目に繋がる動きを取り入れた体づくり運動の実施。 ・個人の能力に応じた適切な選択種目の実施と役割分担。 ・グループ分けを工夫して、技能レベルに合った活動を工夫する。 	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎体力・柔軟性を高める体づくり運動を実施する。 ・2・3年生の選択球技では、まとまった時間取り組ませることで、技術の向上を図る。 ・グループ活動の機会を増やし、仲間と交流を図りながら活動する。 	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・2人1組の柔軟体操を通年実施し、体づくり運動を各学期の節目に実施した。 ・まとまった時間取り組ませることで、技術の向上とともに積極的に取り組む姿が見られた。 ・仲間とのグループ活動を通して、交流を図りながら協力して取り組む姿が見られた。 	
自己評価	(評価) A	(根拠) 始業時・終業時の挨拶など規律を重んじて指導したことで行動にめりはりができ、一定の効果が得られた。また、いろいろな仲間との活動を通して、運動することの楽しさを感じることができたのではないかと。さらに、生涯を通じて運動に親しむ資質・能力を育てていきたい。
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
校長の評価・意見	授業を通しての生徒指導を心掛け、規律ある授業を行っている。生徒一人ひとりが主体的に授業に取り組めるように、目配り気配りも行き届いている。生涯を通して健康増進を目指し、一層の指導の充実を図るとともに、基礎体力向上のために、運動量も高めていきたい。	
上記に基づいた改善策	これまでの指導を継続しながらも更に向上させていけるように徹底を図りたい。生涯を通じて運動に親しむ資質や能力を育てるとともに十分な運動量を確保するため、授業展開の工夫をしながら日々の授業を充実させていきたい。	

重点目標	主体的な表現を引き出す。	
現 状	題材に興味・関心を示す生徒は多い。表現力の乏しさはあるが、毎時 間は積み重ねることで、技術面等のレベルは上がり、自己表現を楽しむこ とができている。	
具体的な目標	自己表現の積み重ねにより、表現することの喜びを味わわせるととも に表現力の向上をめざし、主体性を引き出す。	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や他教科との関連を考慮した題材選定に努め、学習成果をあらわす場を確保し、毎時間の振り返りや発表の場を増やし、表現意欲の向上をめざす。 ・外部講師（地域に根ざした芸術活動に取り組まれている方など）の活用を検討する。 	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス間や部活動の相互見聞の機会を増やし、外部講師の活用を促進する。 ・コンクールやコンテストへの参加を促し、発表の場を設ける。 ・作品発表の場など、日頃の学習の成果を披露し、毎時間の振り返りをさせ、生徒自身に課題を設定し、音楽・美術共に実施できた。 	
達成状況	表現力の乏しさを克服し、様々な芸術を体験し、歴史や文化の背景を学ぶことで、表現意欲が向上し、主体的な表現を引き出すことができた。	
自己評価	(評価) A	(根拠) 外部講師による授業も定着してきた。見聞を広め、生徒達はさらに意欲的に学習に取り組み、表現を楽しんでいくことができた。芸術を愛好する心情を育てることもつなげられたと実感している。より主体的な表現を引き出すために様々な視点から授業をプロデュースし、授業研究を継続したい。
評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
校長の評価・意見	芸術の楽しさを体感させて興味・関心を高め、主体的な学びを引き出している。音楽と美術がコラボした授業、外部講師を招いた授業により、広く社会に目を向ける仕掛けも見られる。今後も一層工夫を重ね、豊かな表現力を育む授業実践をお願いしたい。	
上記に基づいた改善策	外部講師の活用を更に増やし、様々な芸術を感受させ、多方面に生かす内容をつくっていききたい。自己表現力を高める指導に努める。	

重点目標	基本的事項の徹底を図り、学力の伸長に努めるとともに、コミュニケーションを重視した授業を工夫する。	
現 状	中学校で既習済みの事項・語彙力が不足している生徒が大半である。上位層で目標を持ち、意欲的に学習する姿が見られる。	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着のために、授業改善や家庭学習の習慣化を心がける。 ・すべての科目でコミュニケーションを重視した授業を展開する。 ・英検や模擬試験を効果的に活用し、進学にも対応できる力を養う。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の仕方を具体的に提示する。 ・語彙力強化のための単語・構文テストを実施する。また、低学年では週に1度基礎的な文法を学ぶ授業を設けるなど工夫する。 ・スピーキングテストを実施し、話す力を評価する。 ・プリントの共有化、科内の意思統一、情報交換を積極的に行う。 ・授業の中で生徒が積極的に言語活動ができる場を増やす。 ・朝学習・土曜学習・補習・添削指導等を利用し、英検対策や進学対策を進めていく。 	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週単語・構文テストを実施した。苦手な生徒にフォローをした。 ・スピーキングテストなどのパフォーマンステストを計画的に実施した。また、1分間スピーチを授業に取り入れ、英語の発信力向上に努めた。ALTが積極的に協力し、大変助かった。 ・ペアワークやグループワークを昨年度より多く取り入れ、生徒が主体となる授業を心がけた。 ・スーパーイングリッシュキャンプに2名参加。 	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・単語・構文テストともに生徒の取り組みに差がある。成績下位層にとっては成功体験もないまま消化していきただけのものになっている。 ・即興で話す指導を意識して、授業改善に努めることができた。 ・パフォーマンステストの前段階として必要とする単語や文法などの修得にはまだ課題が残る。 	
自己評価	(評価) B	(根拠) 家庭学習の習慣が身につけてきている生徒と、そうでない生徒がはっきりと分かれている。基礎学力の定着にも不安を抱えている。
評価基準	<p>A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない</p> <p>C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>	
校長の評価・意見	時代の要請により英語科教員の指導力に期待がかかっているが、高い研修意識で日々研鑽に励んでいる。授業でも4技能のバランスを図りながら、即興で話す場面設定に取り組み、言語活動の充実を目指している。一方で家庭学習の習慣化の取り組みを継続していきたい。	
上記に基づいた改善策	教員の英語力向上も図りながら、引き続き教員同士で協力して言語活動の充実に努めていきたい。家庭学習の仕方を具体的に提示するとともに、小テストや課題提出など継続的に実施し、習慣化させたい。	

重点目標	家庭生活やそれに関わる産業の基礎となる知識・技術の定着を目指すとともに、他と協力して主体的に家庭生活や地域生活をよりよくしようとする態度を育てる。	
現 状	家庭科への興味・関心はあるが、生活経験が乏しいため、知識・技術の定着の個人差がある。また、考えることが苦手であったり自分の考えや行動に自信をもてない生徒が多く、主体的に考えたり表現したりすることが難しい。	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活や地域生活に対する興味・関心を高める。 ・主体的な思考力・判断力・表現力を高める。 ・学んだ知識・技術を実生活に活かそうとする態度を育てる。 ・生活福祉コースが全員受験する家庭科技術検定で、80%以上の合格率を目指す。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が興味をもちやすいよう、題材や教材を工夫する。 ・実験・実習など体験的な学習を積極的に取り入れる。 ・言語活動を段階的に取り入れ、生徒が主体的に考え、表現できるように支援する。(ワークシートや学習形態の工夫) ・視聴覚教材の活用や実物提示などを行い、視覚的に理解できるようにする。 ・ホームプロジェクトを実践し、家庭生活で知識・技術を活かせる機会を設ける。 ・技術指導では、チームティーチングにより個々の生徒に応じた指導を徹底する。 	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の展開やワークシートの構成を工夫し、自分の意見や考えを表現したり発表したりする活動を多く設けた。 ・実験や実習を取り入れたり、外部講師を活用したりしている。 ・調理実習では、チームティーチングにより、生徒に目が行き届くようにし、技術の定着に結び付けられるようにした。 	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを、様々なツールを用いながら表現できるようになってきた。他の考えを聞いて自分の考えを深める生徒も見られた。 ・検定ではチームティーチングの活用したが、知識・技術の定着が難しい生徒もあり、合格率は80%を達成したものの、不合格者が多かった。基礎を確実に身に付けられるよう指導の工夫が必要である。 	
自己評価	(評価) B	(根拠) 思考力・検定については目標を達成できたが、基本的な知識技術が定着していない生徒も目立つので、指導方法を工夫する必要がある。主体的な思考力・判断力・表現力は、学年での差や個人差もあるが、体験を通して育っていると感じる。それを更に伸ばせるよう手厚く指導していきたい。また、学んだことを知識・技術を実生活に活かすまで結び付いていないので、継続して工夫していきたい。
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされおらず、目標も達成できていない	
校長の評価・意見	内容によっては外部講師を招くなど、社会との繋がりを意識しながら生きる力の育成に努めている。学んだ知識・技能を定着させるための工夫を課題としているが、学習シート等簡素な方が良いときもある。	
上記に基づいた改善策	今後も地域社会とのつながりを意識させられるよう、外部講師の活用等継続していく。また、ねらいを達成するための学習シートの工夫を研究し、実践していきたい。	

重点目標	ビジネス社会に必要な心構えと基礎的・基本的な知識と技術を確実に習得させる指導法の研究。	
現 状	3年生は昨年度学習した基礎的知識を生かし、簿記やビジネス計算など、より上級の資格にチャレンジしている。2年生は初めて商業科目を学ぶということで興味を示し意欲的に取り組んでいる。	
具体的な目標	ワープロや電卓の基礎基本を確実に習得させ、各検定で2級60%、3級90%以上の合格率を目指す。また、積極的に1級に挑戦させる。	
目標達成のための方策	ワープロや電卓などの実技指導に力を入れ、生徒個人のスキルアップを図る。ワープロの授業では毎時間、到達度を記録し目標を立てて授業に望ませる。 簿記では单元ごとに小テストを実施し苦手分野を理解させ克服させる。	
具体的な取り組み目標	<ul style="list-style-type: none"> ・普通計算に多くの時間をとった。 ・毎時間自己評価を取り入れることで、到達度を把握させることにつとめた。 ・小テストを单元ごとに実施した。 	
達成状況	各種検定で2級83%、3級91%合格率を維持できた。1級に挑戦した生徒も部門も含め51名にのぼった。	
自己評価	(評価) B	(根拠) 補習を行った結果、合格率は達成できたが、授業内で目標を達成できるようにしたい。
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
校長の評価・意見	職業人として生活していく上で必要なスキルの向上に努め、資格取得等成果をあげている。今後は、指導者が等しく授業力の向上に努め、生徒の学ぶ意欲の向上と教科・科目の目標達成を目指していきたい。	
上記に基づいた改善策	資格にチャレンジし合格することはもちろん、合格するために努力する大切さも伝え勉強することの喜びや楽しさを伝えたい。	

重点目標	情報活用能力の育成、および、実践力を身に付けさせる授業の研究。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文書処理ソフト、表計算ソフト、電子メール、情報検索と情報発信、情報モラルの5つを中心に授業を行っているが、コンピュータの活用状況に個人差が大きく個別指導が必要である。 ・ 情報モラルの低下が問題となっているため様々な活動を通じてモラルの向上と実践力を高める。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ アプリケーションの基本操作の習得やインターネット上の情報検索の適切な仕方について身に付けさせる。さらに、情報処理検定の合格率を60%以上とする。 ・ 情報端末機器の適切な使用方法を理解し、適切に使用する能力を身につけさせる。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワードプロソフト、表計算ソフトの使用を授業に出来るだけ多く取り入れ徹底的に力を付けさせる。 ・ 模擬問題を繰り返しおこない、操作方法の定着をはかる。 ・ 個別指導を充実させることにより個人のレベルの向上に努める。 	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1時間の授業時間でワードプロソフトを最初の10分間取り入れ、その他の時間をエクセルとして使っている。 ・ 3学期の朝学習では情報処理検定対策の問題を取り入れる。 ・ 時事問題（新聞）を取り入れ、実際に起きている端末機器での社会的問題を教材として取り扱っている。 	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワードプロの合格率は物足りなかった。情報処理検定は1月31日なので、合格率を60%に届けたい。 	
自己評価	(評価) B	(根拠) 時事問題を取り入れても、実際に被害者にならないとピンと来ない雰囲気がある。ワードプロの取り入れ方が、半端になってしまったのか合格率が今ひとつ上がらなかった。
評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
校長の評価・意見	身近な話題を教材として取り扱い、生徒の学ぶ意欲の向上に努めている。生徒は主体的に嬉々として授業に参加しているが、知識・技能の定着の面では課題も見られ、授業の工夫改善が求められている。	
上記に基づいた改善策	コンピュータにおいて入力速度は不可欠である。授業の流れや扱う単元は大事だが、毎時間10分程度の速度問題をやらせた後に授業を始めるなど工夫したい。	